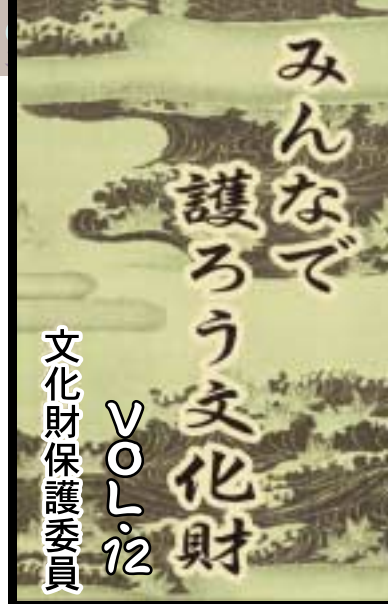




「阿蘇の農耕祭事 No.2」

委員 嘉悦 渉

今月は、夏に行われる祭事のうち、おんだ祭り・風祭を紹介します。阿蘇神社の楼門の脇にある神幸門・還御門は、この時のみ開きます。



「おんだ祭り」は、神々が稲の生育状況を見て回り、五穀豊穡を祈る祭事です。

御田植神幸式（阿蘇神社 7月28日）
おんだ祭り（国造神社 7月26日）

阿蘇神社では、前夜に十二神を神輿にうつす遷座祭が行われます。一の神輿に健甕龍命、二の神輿に阿蘇都比咩命、三の神輿に三・五・七・九・十一・十二の宮の男性神、四の神輿に二・四・六・八・十の宮の女性神が遷座します。祭りでは、神輿は駕輿丁に担がれて、神幸門から出発します。猿田彦を先頭に、鷹持・宇奈利14名・獅子頭・早乙女・田楽・田男・牛頭・田女・神輿・宮司等、約200名の大行列でお飯屋へと向かいます。青田の中を進む行列は、豪華な絵巻を見るようです。

一のお飯屋に到着し、神輿が納められて神事が行われます。その後、お飯屋の前で駕輿丁たちにより田歌が歌い始められます。打ち鳴らす大太鼓を中心に宇奈利・獅子頭等が集まり、その周囲を神輿がまわり、駕輿丁たちは田歌を歌い続けます。まわっている神輿に宮司が稲の苗を投げ、神職や氏子たちも続けて投げますが、これを「御田植式」といいます。その後行列は二のお飯屋に向かい、この時から田歌が歌われ、ゆつくりと進みます。

また、沿道の人は神輿くぐりや宇奈利の櫓に手を合わせたりします。二のお飯屋でも同様に神事が行わ



れます。

行列は、青田の中を田島一下町一仲町一上町一賽木と進み、神社に到着します。還御門から入り、神殿を12回まわる「宮巡り」が始まります。そして、境内で7回まわり、御田植式が行われます。その後、神輿は拝殿に安置され駕輿丁による歌い納めや成就祭が行われ、御田植神幸式は滞りなく終わります。夜のとはりがせまる頃、祭りを無事に終えた人々の日に焼けた顔に、安堵の笑みがこぼれます。

国造神社のおんだ祭りは、阿蘇神社より小規模ですが、内容はほとんど変わりません。前夜に遷座祭を行い、祭りでは、猿田彦を先頭に宇奈利6名・田楽・田男・牛頭・田女・神輿1基・宮司等の行列でお飯屋に向かいます。お飯屋では

神輿が納められて神事があり、駕輿丁による田歌の中で御田植式が行われます。

次に、田歌を歌いながら行列はゆつくりと神社へ向かいます。神殿で7回の宮巡りと境内で御田植式が行われ、神輿は拝殿に安置し駕輿丁による田歌の歌い納めがあります。その後、駕輿丁は各地区へ帰って田歌の歌い込みがあり、神社では神々を遷座しておんだ祭りは終わります。昔から不思議とこの日に夕立があり、「手野のおんだは夕立おんだ」と諺にもなっています。

風祭（5月20日・8月16日）

農業にとって風水害は大敵であり、これを鎮めるのが風祭です。まず、宮地の風宮で神事が行われます。その後、神職2名は二手に分かれ、御幣を手にかざし、手野の風宮へ向かいます。これは、邪悪な風を風穴に封じ込めようとするためです。手野の風宮で合流し、宮地と同様に神事が行われます。ここでは、二本の御幣は御神体となります。

この日に農作業を行うと必ず風水の災いが起きるとされ、近郊の農家は作業を休んで阿蘇神社・国造神社・風宮を参拝したものでした。（ ）の期日は平成19年のもの